

スマート都市とは



AI社会

CO2吸収

マイアバター社会構築
誰でもが幸せになれる社会
ブルーカーボン拡大
DACの開発と普及
SDGS循環社会

ブルーカーボン拡大

リニューアブル拡大

スマート都市とは、排出するCO2よりも吸収するCO2の方が多く、空き家・空きオフィス・空き店舗の総数が徐々に減少し、24時間いつでも移動ができ、誰でもが24時間安全に遊べる場所があり、災害時にも安全に過ごせる。

24時間予約可能マイアバターが運転する低速自動運転車 & マイアバターが口頭でナビゲートする安全運転車

ユートピア棟

ブルーカーボン+

お酒飲んだら、ゆっくり寝ながら帰宅しましょう。

極楽ベッドマイラクリーントイレにより介護を軽したうで、障害者や要介護者を、子供高齢者を含む集団で遊びながらケアを行えるようにする。

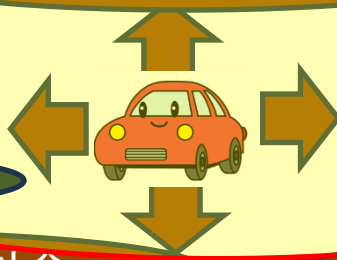
木造人工島のブルーカーボンの養殖場に、アクリル板を敷き、災害発生時に、何千何万という人達が安全に過ごせるようにする。仮設住宅も設置可能。

CO2が減る社会

24時間移動が可能

災害時安全な家

CO2



無駄なスペースが減る社会

総CO2減ならば化石燃料も可能

超大規模な開発を伴うので2035年以降

誰でも24時間安全に遊べる場所がある

耐震構造 & 洋上住宅化
100年で達成

海岸沿い及び河川の再開発(プール設置)での水車発電 & ブルーカーボン & DAC拡大策

駅前集中型から、全域での平均的活性化

スマート都市の作り方

裏金サイクル(裏金での無駄な発注、増税(2倍)、
 貧困化、実質賃金低下)により、**未婚率が5倍増**
生活保護受給率が2.5増が、少子化の最大要因。
 一人当たりGDはG7で最低となる。

GDP4位

国際競争力38位

(余裕はないが結婚可能)

生活が成り立たない人達

誰でもが幸せになれる
 社会を目指すべき
 =「スマート都市」へ

(余裕がある)

(余裕はないが結婚可能)

(余裕がある)

一億総中流化は理想だ
 が、目指すべきではない。
 (どこかの国にしわ寄せ)

GDP1位

国際競争力1位

超低空の空飛ぶ船

マイアバターが運転する低速自動運転車

マイアバター社会

顔認証+社会

誰でもが幸せになれる社会

極楽ベッド&マイラクリーントイレ

ブルーカーボン&DAC拡大社会

ブルーカーボン+社会

海岸沿いの水車発電

木造人工島の海産物農業

木造人工島の洋上住宅

河川のプール・水車発電

スマート都市

技術的な
 裏付けのあ
 るシナリオに
 基づき、達成
 に必要な企
 業を募る。

全方位同時改革

国民の不安材料を糧にして、
 例えば「防衛力増強」等を名目
 にして、必要のない装備や無駄
 な設備に税金が使われている。

自動スナイパー専守防衛

「地方の課題は存在しない」のに
 地域ごとに解決しようとしている。
 「一課題追求型」「メーカー都合
 の利益優先の提案」なので、
 有効なものがほとんどない。

バリウスリンク会議

高知県はカーボンニュートラルと地震津波対策とを同時に行う。

ブルーカーボン+
& 洋上住宅エリア

水車発電エリア

ブルーカーボン+エリア

ブルーカーボン+エリア

「海岸沿いの水車発電」

海水の流れは浅瀬に向かう性質があり、波は常に海岸に向かってきます。沿岸部に□12mの木造人工島を4個つくり、その上にφ19mの水車を設定し、水車の方向を海岸線に垂直に向け、波の受け口よりも狭い流路幅で水車を回すと高速で回転し、また水は空気のエネギーに比べ770倍なので、トルクが大きく、ギアボックスでの加速が効き、高速で発電機を回し、24時間大容量の発電が可能となる。

「ブルーカーボン+」

アクリル板

遊び場&災害時の仮設住宅エリア

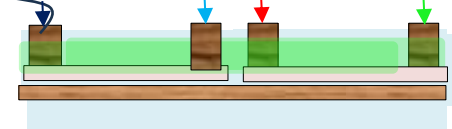
培養土

木枠(底板)

「ブルーカーボン」

カラフルな色設定(模様)が可能

密閉木箱が
少し露出程度
で設置する。





江東区はカーボンニュートラルと地震津波洪水対策を同時に行う。

「ブルーカーボン+」

アクリル板

遊び場 & 災害時の仮設住宅エリア

培養土

木枠(底板)

「ブルーカーボン」

カラフルな色設定(模様)が可能

密閉木箱が
少し露出程度
で設置する。

ブルーカーボン+エリア

ブルーカーボンエリア

いかなる地震や大津波にも安全であり、
災害時に区内の全機能が正常に働き続ける。

区役所+消防署+警察署+体育館
+文化センター+図書館+商業施設

カーボンニュートラル達成

基本的に内湾なので波が弱く、波力発電が難しいと考えられ、火力発電からの電力を使い続けながらもブルーカーボン(+)とDACとで、区及び区民のCO2排出分は区内で吸収する。

DACエリア

安全安心な、24時間予約 & 乗車が可能なマイアバターが運転する「低速自動運転車」及び超低空の「空飛ぶ船」を新交通システムとして整備をする。

東アジア「海洋防衛機構」・「カーボンニュートラル研究機構」・「マイアバター社会研究機構」の本部を東京湾の「洋上都市」に設置する。

防衛問題を考えるときに、防衛だけを考えてはいけない、どんな防災の街づくり、どんなデジタル未来社会になるのかを見極めながら考えていく必要がある。
又日本単独で考えてはいけない「東アジア海洋防衛機構」を設立し、より多くの国との連携が必要である。

東アジア「海洋防衛機構」では、世界中から人材を募り、最先端の防衛システムを研究する。(自律AIドローン等)

ブルーカーボンの養殖場の上側にアクリル板を張り、多目的に使えるようにする。

ブルーカーボン+エリア

ガーデンフィールドのHPの「木造人工島の洋上都市」をご参照

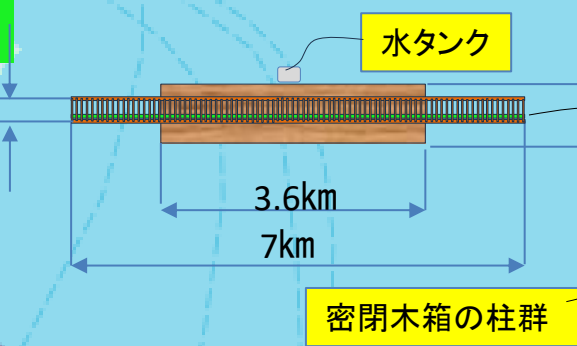
移動中の人や外国人観光客の一時避難所

24時間予約が可能な低速自動運転車&超低空空飛ぶ船

防衛費1/10
防衛力10倍

コストが安い
納期が早い 地震に強い
長持ち(千年) 津波に強い
カーボンニュートラルに貢献

木造人工島の「洋上都市」



沈み込み可能量

密閉木箱柱&居住棟が沈むことで、〇万人を吸収する。
個人数過多気味になったら、船で必要人数を移送する。

任意設定(都知事判断)

誰でもが幸せになれる社会とは、マイラクリーンイレで、おむつ交換やトイレ介助を排除したうえで、子供や高齢者でも(車いすの生活でも)軽介護ができるようにし、マイアバターで連絡を取り合い、顔認証+で入室し、ケアを行うシステム構築。

浮き輪大作戦



浮き輪ポスト設置

幼児用～大人用の各種サイズを取り揃え、水没の可能性のある家庭に配布する。毎年、装着の練習を義務付けし、サイズが異なったら無償で交換する。

水没の可能性のある街の随所に、浮き輪ポストを設定し（足で強く蹴飛ばすと扉が開く仕組み）又、該ポストには、逃げ込める複数のビルの地図を設定

洋上・湖上住宅化 & 水に浮く住宅化

地震・津波に絶対的に強い、土地の買収不要・基礎工事&基礎不要・耐震構造不要・千年維持

死者数0を目標に
各種対策を行う。

5 m水没の場合：江戸川区
江東区、葛飾区はほぼ全滅し、
足立区も大部分が水没する

南海トラフ大地震を例に考
えると、東京湾に津波が襲来
するのは15～30分後

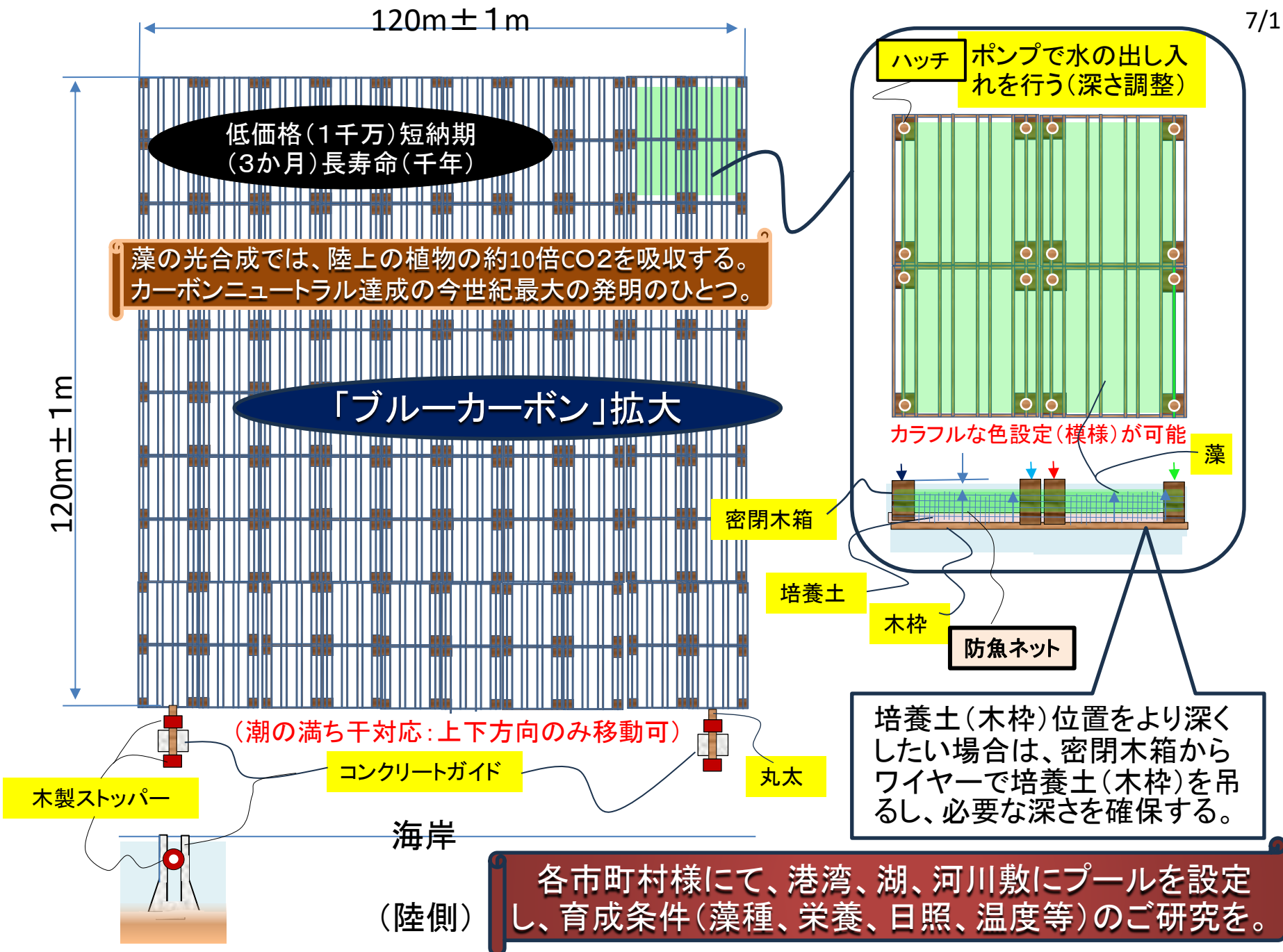
[higaisoutei_gaiyou.pdf](#) の
内閣府作成の被害想定によ
れば、死者数約8千人

3 m水没の場合

東京都「水没地域の死者0」の浮き輪大作戦

水没想定域の人達は、まず浮き輪を膨らませて、あらかじめ決められたビルや海洋住宅・ブルーカーボン+の領域に速やかに移動する。道路が寸断して移動できない時は、各区からの指示を待つ。

（水没想定域の各区は、区長以下の必要なスタッフは洋上都市に移動し、指示可能な体制を整える。）



「イソホロンジアミン」を用いたCO2貯蔵技術

より多くの空気中のCO2(0.04%)を取り込むため、大型タンクに高压で吸引し、低温・高压状態でより多くのCO2をイソホロンジアミンに吸収(カルバミン酸に変化)させた後、空気を排出し(真空状態)し、次に槽を高温にすると、カルバミン酸からCO2が分離抽出され、槽内はCO2で満たされる。

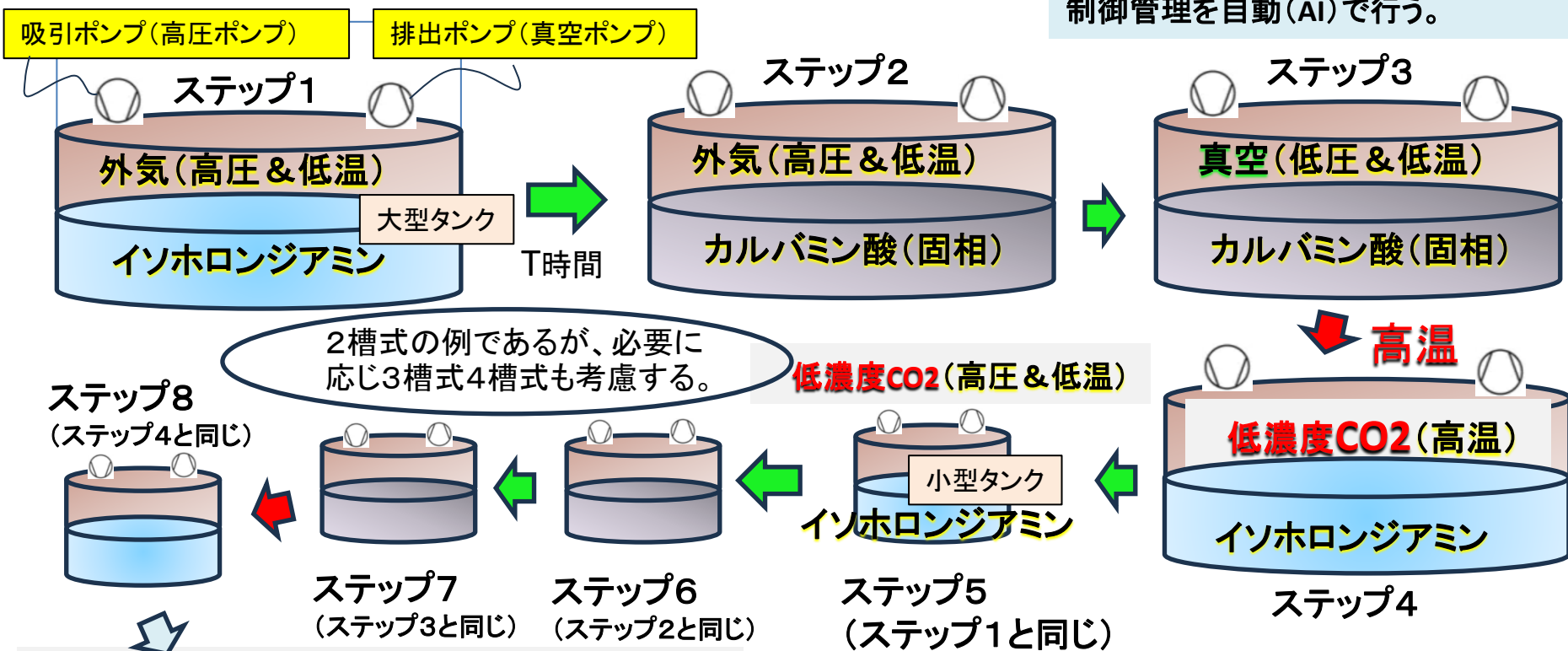
該CO2を(あらかじめ半真空にした)小型の第二層に移動し、圧縮し、低温放置にて、イソホロンジアミンに吸収(カルバミン酸に変化)させる。以下同プロセス後、タンク貯蔵。

8/11

大気中のCO2の量

1750年: 278PPM
2021年: 400PPM (大気の0.04%)
→ **40%増加**

各槽ごとに、各種センサーを設定し、状況を確認しながら、温度及び圧力制御管理を自動(AI)で行う。



高濃度CO2 (永久保存又は工業用途)

吸引ポンプ (高压ポンプ)

DAC

CO2高压貯蔵タンク (Direct Air Capture)

ステップ1～ステップ8で得た高濃度CO2を高圧でタンクに貯蔵する: 木造人工島の波力発電の電力を使い、洋上に大規模に展開する

2050年までに全国の市町村ごとに、CO₂の排出量と削減量とがイーブンあるいはCO₂削減量が、排出量を上回るようする。最終的に多少の化石燃料が残存しても、再エネ化とCO₂削減(ブルーカーボンとDAC拡大)で、CO₂の削減が上回ればよい。

海岸沿いの都市

カーボンニュートラル

海岸沿いの水車発電

ブルーカーボン(+)

無人島を含む海岸沿いに設置

海を持たない市町村: 第一ステップ(2040年頃から他に転用又は世界貢献)

当面

海岸沿いの水車発電

ブルーカーボン(+)

最寄りの沿岸部の都市から海岸を借用する(地中ケーブル)

海を持たない市町村: 最終ステップ(2040頃から徐々に拡大: **早期取り組みも推奨**)

最終

プール・水車発電

淡水ブルーカーボン

DAC

河川周りの再開発を伴うので時間がかかるが、理想的な形。

河川の流量の変化に対応し洪水に強い

海を持たない市町村は、最寄りの海のある都市から、場所を借りて(詳細なルール決めが必要になる)海岸沿いの水車発電を行い、地中ケーブルにて電力の供給を受け、また、ブルーカーボンの拡大により、CO₂の削減を行います。

それだけではCO₂の削減が足りない場合には、公海上の無人島やどこかの国の無人島を借用しブルーカーボンの拡大を行う。

将来的には、プール・水車発電と淡水ブルーカーボン及びDACにする。

進め方: 従来の進め方は、基本的に企業都合の提案(=企業の利益のための提案)なので、狭い範囲の技術内容であり、有効なものがほとんどない・・・

成熟社会での開発手法

ユーザー又は各省庁・自治体主導で、本当に欲しいもの(本当に使い易いもの、本当に有効なもの)を考え、それを達成するために必要な企業を集め、使う側の意見をよく聞いて、全体での議論をしながら開発を進める、「官民連携のバリウスリンク会議」による開発手法が必要である。

ガーデンフィールドのHPの「バリウスリンク会議」をご参照下さい。

河川の流量の変化に順応し、洪水に強い「河川のプール・水車発電」

安価
安全

長寿命

工事手順

1. 河川のバイパスを造る
2. プールを造る。(2. と3. とは要連携)
3. プールの底から泥水を抜く配管をつくる。
4. 木造人工島を造る
5. 大型水車及び発電機を設置する。

通常の河川の流れ

複数本のワイヤー
(流木を誘導する)

深く掘り下げたエリアで大きな石が流れないようにする。(定期的に石ころを取り出す作業が必要)

流路を狭めて流速を増す。

泥を吐き出す大型ポンプ(冬は融雪用途、他の季節では農業用水用途)

仮設住宅の設置エリア

プール

水耕栽培用の竹製ざる。
ひっ掛け部も竹を使う。

プール作りで生じた大量の土砂を使用し、堤防に盛り土をするので、洪水に対してより安全になる。

流出防止用ストッパー

工事中は河川のバイパス→淡水ブルーカーボンや遊歩道、あるいはゴムボートで遊べる施設等...

大型木製水車

舗装道路

密閉木箱(浮力)

木造人工島

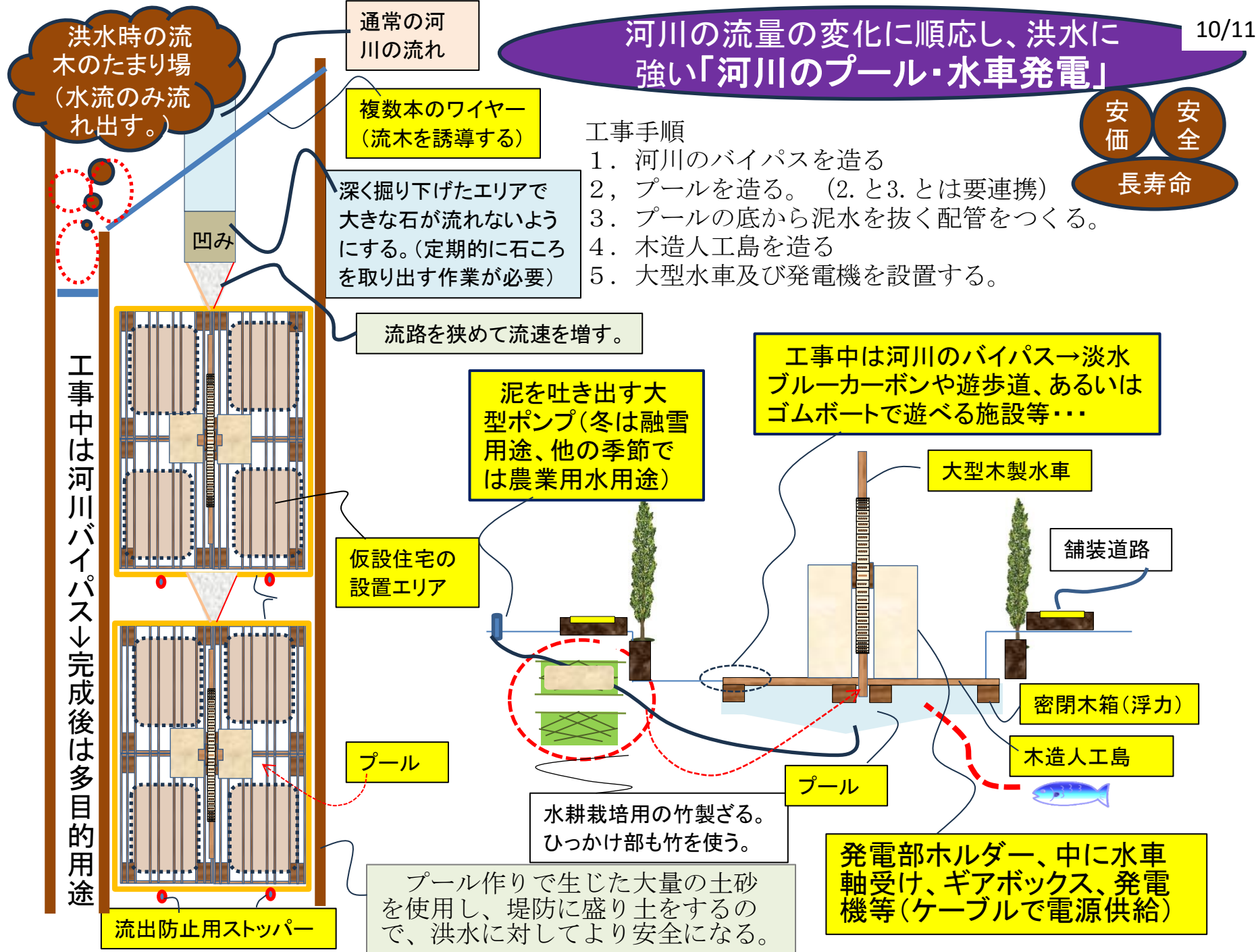
プール

発電部ホルダー、中に水車軸受け、ギアボックス、発電機等(ケーブルで電源供給)

洪水時の流木のたまり場
(水流のみ流れ出す。)

凹み

工事中は河川バイパス→完成後は多目的用途



低コスト(洋上風力発電の1/200)・短納期(半年)・長寿(千年)

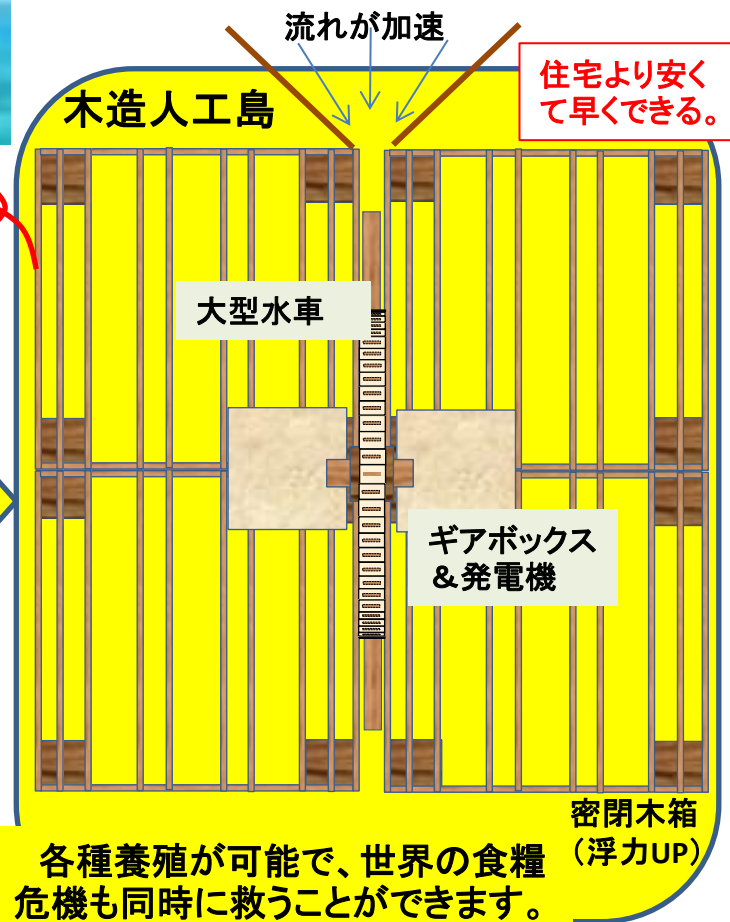
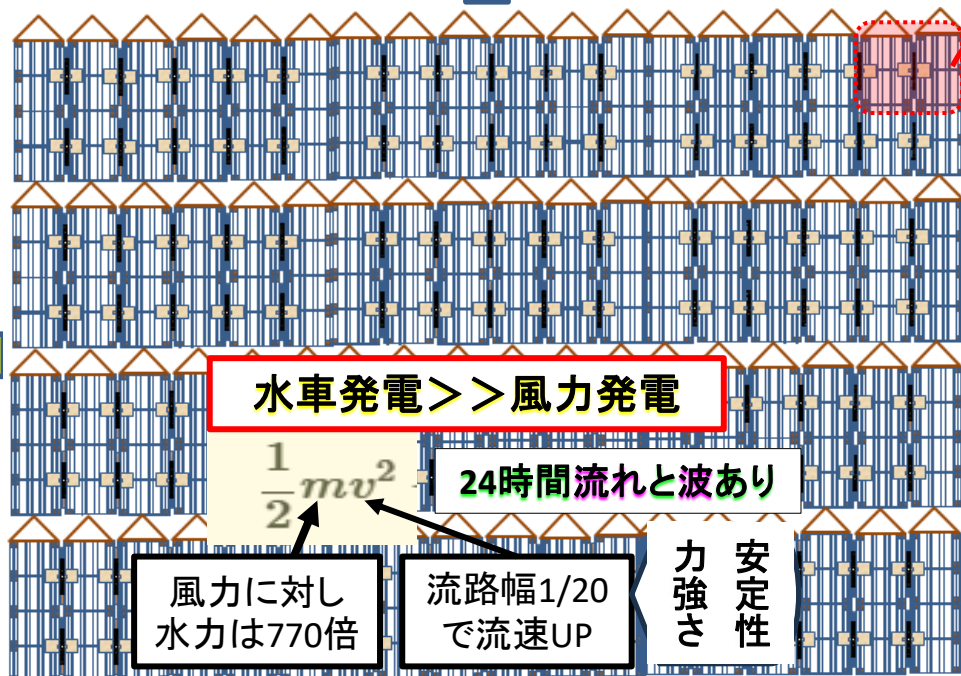
海岸沿いの水車発電

全ての波は海岸に向かって進みます。
波の流路を狭めることで流れが加速し、
大型水車を高速で回すことができます。

水エネルギーは空気の770倍、木製水車が世界を救う。

木造人工島の水車発電は、低コスト・
短納期・24時間大規模発電が可能で、
環境にやさしく、森林の循環に貢献する。

大規模な拡張性



海岸沿いの水車発電で、世界の60再エネ化達成

各種養殖が可能で、世界の食糧
危機も同時に救うことができます。

ウクライナ戦争の終結の仕方

AI共同統治：国連2，ウクライナ1、ロシア1
AI(マイアバター)からの政策案を追認する

ウクライナ側からみれば、建国での領土保全が原則であり、(プーチン氏色の強い)ロシア側からみると、もともとウクライナの全土がロシア領という考え方なので、仮に、このまま停戦しても、双方に不満が残る結果となり、結局不安定な状況が続きます。

AI共同統治による世界平和への道

なぜプーチンは戦争を始めたのか？

1. 思想的なもの。(その力があれば何でもできる。)
2. 資金の余裕がある(たとえ強い制裁を受けたとしても孤立することはなく豊富な資金の見込みがある。

化石燃料で儲けられない時代を演出することで、野望を断ち切る。

海岸沿いの水車発電
河川プール・水車発電
ブルーカーボン拡大
再エネDAC技術拡大

カーボンニュートラル達成

環境破壊を起こす再エネ不要
危険な原発不要

ロシアの軍事的野望&中国の再エネ支配を同時粉碎

先の戦争では日本はエネルギー不足で負けたが、今度は、自然再エネ技術で悪の枢軸に勝利する。

雨降って地固まる

AI共同統治

国連代表(正)

国連代表(副)

ロシア代表

ウクライナ代表

余裕はなくても、誰もが幸せになれる社会をめざす。

大画面TV(裏面)

全知
全能

AI(マイアバター)による
詳細技術図解の政策説明

<「プール・水車発電」を十日町市「田川」に設置の概要>

新潟県十日町市の「田川」に、「プール・水車発電」を設置することを、十日町市長様に提案をしております。

「田川」は「庭野日敬」開祖の生誕地あたりから流れてきており、立正佼成会様にも協力の要請をかけているところです。

各市町村ごとにカーボンニュートラルを達成する考え方を踏襲

「プール・水車発電」の利点

1. 河川の水流量の変化に追従する。(春夏秋冬24時間発電する)
2. プール製作での土砂を堤防の嵩上げに利用できる。(安全性UP)
3. どんなに水嵩が増しても、壊れず、流されない。(千年維持)
4. プールの泥水抜きの水を冬は融水用、春夏秋は農業用水に利用。
5. 淡水魚の養殖や水耕栽培が可能。
6. 洪水や津波発生時の一時避難所になる。
7. 地震や津波、洪水や火災に絶対的に安全な場所として、仮設住宅やテント等の設置エリアとして利用できる。
8. 市町村ごとのカーボンニュートラルが達成されやすくなる。
9. 森林の循環がよくなる。(世界レベルで木材が足りなくなる)
10. 輸出産業が活性化し、(中国が失速し)再びGDPが2位になる。

課題としては、大型水車の高速回転の騒音が考えられ、付近の住民には二十窓設定の補助金(3割負担程度が理想)が必要になると考えています。(健康障害や環境破壊はない)

景観について、無柱化になり、代わりにあちこちに大型水車が目立つようになると想定されます。⇒ 新たな風物詩として受け入れられていくと予測される。

(電柱のある哀愁のある風景が好きだという外国人もいます。)

かつてのオランダの風車のように、街中に溶け込むようになる。

従来からある小水力発電は、河川の増水や減水に対して適正な水車の位置が確保できない為、あるいは洪水などで押し流されてしまうため、用水路などの流量が安定しているところでしか使えないという制限があり、大規模な発電ができないが、それが可能。

風力より水力がよい理由

$$\frac{1}{2}mv^2$$

24時間流れと波あり

風力に対し
水力は770倍

流路幅1/20
で流速UP

力強さ
安定性

市町村のエリア内に、広く使える河川敷があれば、淡水性のブルーカーボンの拡大が可能になり、「プール・水車発電」の拡大により、数年以内にカーボンニュートラル達成可能になる。

河川の周辺には住居が多く、住居の移動を伴う市町村では時間がかかる。

水車の色や形を工夫することで、またシンボルマーク等をつけることで、それなりに主張のできる水車となり、「立正佼成会」様にも、(金を出して)生誕地らしい演出ができるので、考慮をしいって欲しいと話をしています。

安価

安全

長寿命

新潟県十日町市「田川」周辺地図



田川の可能な場所で、
複数の「プール・水車
発電機」を設置する。

河川の流量の変化に順応し、洪水に
強い「河川のプール・水車発電」

庭野日敬
開祖生誕地

「プール・水車発電」発祥の地として、十日町市及び立正佼成会ともに、知名度が大幅にUPすると考えられる。(世界中から、視察団や観光客が殺到すると考えられる。)

雪と里山と大型水車の街：プールから泥水をくみ上げ、冬は溶雪用、春夏秋は、灌漑用あるいは淡水ブルーカーボン育成用として使用する。

街づくりの前提として、カーボンニュートラルと防災都市の構築をお願い致します。

三井不動産様と東京都様へのお願い

「カーボンニュートラル達成の為の準備を何もやっていないじゃないか」と問いかけると、どこの自治体様も、それなりの文書が提示され「うちはきちんとやっています」と、誇らしげに言ってきますが、そこには達成のための技術シナリオがなく、後付けで「担当課が考えることになっている」ようですので、当然担当課にはプレッシャーはあっても、達成の為の意欲や知識はないので、「環境後進国」が続くと見えています。

特に問題なのは、各自治体が「（実態はないのに）自分たちは温暖化対策をやっていると思っていること」、あるいは、何もやっていないので、隠れ蓑の文章を用意していると考えた方がよいかも知れません。

私はもっと、日本を代表する都市様や企業様の「**モラル的**」なものが問われるべきだと思いますが、先に国家の方針として、2050年のカーボンニュートラルの達成が決まっているからして、再開発の内容の中に、どのような技術シナリオで達成するのが盛り込まれなければなりません

また、人口減時代の再開発の基本的な問題点：空き家・空き店舗・空きオフィスが増加する問題にどう対処するのか？ また、通販が拡大していく状況を踏まえられ、イトーヨーカドー様の店舗縮小計画のように、東京都様・三井不動産様として、将来の街づくりの全体計画を示して欲しいです。

三井不動産 取締役 専務執行役員 鈴木眞吾さんの弁によりますと、「この素晴らしい今の外苑。これを、将来にふさわしい形にさせていただいて、次の100年につないでいく。それが我々としての個の開発の意味、大儀だというふうに思っています。」ですが、このままの状況で2050年の日本の姿を想像してみてください。

私は、以下のように予測します。

GDP30位くらい、国際競争力80位くらい、超大型地震で、首都機能は失われ復旧が不十分のまま・・・

超大型地震による首都機能マヒを避ける意味で、首都機能移転の話は過去に何度も持ち上がっていますが、本来それが必要だからではないでしょうか？

「三井不動産様の将来にふさわしい形」を（「三将形」と呼称し）東京都様をご承認されたので、以降「三将形都認」と呼称させていただきますが、「将来にふさわしい形」とはどのようなものなのでしょうか？

「三将形都認」では、将来どうなっていくのか？以下の質問にお答え下さい。

1. 2050年では、GDP何位で、国際競争力は何位か？
2. 2050年に東京都のカーボンニュートラルは達成されるのか？
3. 関東大震災を超えるよう地震での首都機能は維持されるのか？

上記の質問にお答えいただき、あるいはご考察いただいたときに、「三将形都認」で、将来の都民の暮らしが悪化するのでしたら、修正・見直しをかけていただきたく切にお願い申し上げます。